

1 野鳥を守る活動

●当会の保護区が自然共生サイト認定



渡邊野鳥保護区フレシマの光景

当会が2005年に根室市に設置した「渡邊野鳥保護区フレシマ」が、環境省が定める自然共生サイトに認定され、2023年10月25日の認定証授与式に上田会長が出席しました。自然共生サイトは生物多様性の劣化を食い止めて反転、回復させる「ネイチャーポジティブ(自然再興)」達成に向けた制度のひとつで、2030年までに陸域と海域のそれぞれ30%を保全するという30by30目標達成のための取り組みです。当会は、今後も鳥類の重要な生息地における野鳥保護区の設置を継続し、生物多様性の保全に貢献していきます。

●絶滅危惧種「サンカノゴイ」の国内繁殖個体数が明らかに



サンカノゴイ (撮影：福田篤徳)

サンカノゴイ(環境省レッドリスト:絶滅危惧IB類)は、湿地、湖沼、河川のヨシ原で繁殖するサギ科鳥類で、個体数の減少が懸念されています。当会が2020年から2022年に行った繁殖分布調査などの結果、国内では計17羽のオスが繁殖している可能性を確認しました。この数は、日本で繁殖する湿地・草原性鳥類の中ではシマアオジに次いで2番目に少ないと推定されます。本種の保全のために、まずは残された繁殖環境の維持と回復、さらには好適な繁殖環境の創出と維持管理が求められます。当会は今後、北海道北部を中心に、繁殖地が限定されるサンカノゴイの繁殖環境を保護するために、行政機関との協働や保全への働きかけを行なっていきます。

2 野鳥に親しみながら守る活動

●アカコッコ館開館30周年記念イベント開催



記念シンポジウムの様子

当会のレンジャーが常駐している三宅村立施設「三宅島自然ふれあいセンター・アカコッコ館」が開館30周年を迎えました。これを記念して、特別イベントを開催しました。5月、6月には当会の安西参与をガイドに三宅島ツアーを開催しました。島外からのツアー参加者は、アカコッコ、ウチヤマセンニュウなどの野鳥のほか、アオウミガメや火山景観を観察し、自然観察を満喫しました。また、2024年3月には島民の方を対象に、田尻自然保護室長、研究者らを講師に迎え、アカコッコの保全をテーマにした記念シンポジウムを開催しました。今後も島や野鳥の魅力を島内外に発信し三宅島の自然保護に尽力していきます。

●野鳥観察データベース「eBird」を普及するキャンペーンを実施



ジャパン・バードフェスティバルでのeBird野外体験講座の様子

当会は、世界最大の野鳥観察データベース「eBird」を運営するコーネル大学鳥類学研究室と協働で、2021年から日本語版「eBird Japan」を運営しています。2023年度は、eBirdをより多くの方に利用いただけるよう、5月の愛鳥週間、11月のバードウォッチングウィークにキャンペーンを行いました。また、ガイド「これを読めばわかる! eBird & Merlinの使い方」の発行、オンラインセミナー、千葉県我孫子市で開催されたジャパン・バードフェスティバルへのブース出展、野外体験講座などでeBirdを紹介しました。これらの普及活動の結果、eBird Japanの利用者数は6千人を超え、集まったデータは野鳥の生態研究や保全に役立てられます。

※「eBird Japan」のHP (<https://ebird.org/japan/home>) はこちら

